

隠れ家を作ろう

福本保育園（熊本県菊池市）

[5 歳児]

園に隣接する雑木林に、皆でたびたび出かけて行きます。自然の宝探し、自然物を使ってまご遊び、落とし穴や干草のベッド作り、木登りなど、林にあるものと触れ合いながら、いろいろな遊びを思いついて楽しんでいます。

つるつる
すべる



あっ！飛んで
いっちゃた



あっ！
蟬がいる！

登るから、ちょっと
下で持ってる



隠れ家作り

段ボールを広げて並べ、隠れ家の間取りを考える。ロープを活用することにより、少し立体的になった。



せっかく作った隠れ家が、雨で壊れて落ち込んでしまった。濡れた段ボールをみんなで片付けた。「今度は雨にも負けない隠れ家を作りたい」と子どもたちの新たな意欲が出てきた。

壊れない隠れ家ってどんなの？

ヒント！ 保育者が1本の笹を切ってロープに立てかけておく。

床をきれいな段ボールに代え、ロープの上に笹を乗せ始める。自分達で笹を切り出したり、次々に木の皮を運んだりする。



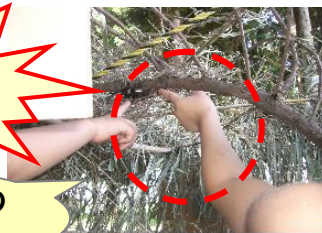
隠れ家の中で遊ぼう

段ボールや切り株などで、思い思いの家具を作ってコーディネート。完成した隠れ家は涼しく、みんなでおやつを食べた。



あっ！
カブトムシ
がいる！！

かっこいい！俺たちの
隠れ家に遊びにきた！



思わぬ来客に大喜びの子どもたち。林遊びで覚えたカツオ節（杉の皮でこすったもの）や土のジュースなどでカブトムシをもてなした。

考察

- ・自分の思いを通そうと言い争う場面もあったが、隠れ家を完成させるためにはどうすればよいか考え、友達の見解を聞いたり自分の意見を伝えたりしながら譲り合うことを学び、接点を見つけるようになった。
- ・隠れ家を作る過程で、自分たちで役割分担ができたのは大きな成長と感じた。
- ・隠れ家の完成に向けての様々な体験は、子どもたちの気付く力や行動力を生み出した。自然の中で遊びきる楽しさや達成感を味わうことができたのが、一番の大きな収穫であった。

みどころ

度々林に出かけていくうちに、子どもたちにとって林が身近な遊び場になっていったと思われます。日頃扱い慣れている段ボールを持ち込んでの隠れ家作り。これは、「隠れ家」という言葉からも分かるように、園でいつも作るお家ごっことは違った、自分たちの特別な場所だからこそ出てきた工夫ではないでしょうか。また、林の中で枝や笹や切り株などの自然物を利用したことで思わぬ来客も訪れ、子どもたちのわくわくするような創造性をかきたてる体験になっています。